

## 岩倉市タウンミーティング（岩倉五条川桜並木保存会）会議録

日時 令和3年7月26日（月）  
午前10時30分～11時45分  
場所 ふれあいセンター

出席者 岩倉五条川桜並木保存会 9名、篠ヶ瀬樹木医  
市長、副市長、建設部長、商工農政課長、商工観光グループ長、同担当者、秘書  
企画課長、広報広聴グループ長

テーマ 長期的な五条川桜並木の保全に向けた意見交換

### 1 あいさつ

- ・岩倉五条川桜並木保存会 会長 石黒博邦氏
- ・樹木医篠ヶ瀬亨氏のご紹介
- ・久保田市長

### 2 保存会の活動状況や桜並木の現状について

- ・保存会より資料に基づき活動状況の説明  
施肥作業、剪定作業、後継木保護、ベッコウダケ駆除の4項目を中心に活動中。  
(詳細については資料を参照)

- ・篠ヶ瀬氏よりソメイヨシノの寿命について説明

ソメイヨシノの寿命について、60年説、70年説などいろいろあるが、枝先や根の先端の細胞分裂は半永久的に続くものであり、寿命というものは基本的には無い。世界には長寿の木があり、日本にも屋久杉、根尾谷のウスズミザクラ、山梨県の山高神代桜などがある。

では現実としてなぜ尽きてしまうかという点、周辺木との日差し獲得競争、気象害、ヒトによる伐採、人為的な撤去などがあって尽きてしまう。ソメイヨシノは野山にあったわけではなく、栽培品種と言われている。種では増えず、接ぎ木によって生産されている。植栽時期が明らかで現在でも存在しているソメイヨシノの古木として、明治8年に植えられた東京の小石川植物園のもの、明治15年の青森県弘前公園のもの、明治40年の茨城県の小学校の校庭に植えられているもの、などがある。これらの事例から、ソメイヨシノに必要なこととしては、適切なお世話と地域のみなさんが常に気に掛けること、この2つが重要であると思う。まだまだソメイヨシノは元気に育っていく。塚本忠男樹木医の言葉に「サク

ラは人の足音で育つ」というのがあるが、まさにそのとおりだと思う。ソメイヨシノは非常に強い。資料として切株からの萌芽枝を育成した例と、胴吹き枝を育成した例を掲載したが、これはみなさんの努力の賜物であり、すごく良い事例だと思う。

・商工観光 G 長より現在の維持管理の状況と今後の方向性について説明

桜の維持管理費用としてはここ数年は年間1千万円程度で推移している。ただし、平成30年度は台風による倒木被害等により2千万円程度となっている。

寄付に関しては全体として増加傾向にあり、管理費用に充当させていただいている。

桜の再生に向けた方向性としては大きく3つの方針を考えている。

1つ目として、これまで以上に既存の桜の保全に取り組むこと。間引きの剪定、施肥、後継木の選定・育成などを行う。

2つ目として著しく老木化した桜を植え替えること。昨年より取り組みを始めたところであり、伐採後に若木を植えるもの。

3つ目として密植状態の桜を伐採すること。桜と桜の適正距離を確保するため必要な場合は伐採を行う。

植え替えに関しては大きく2つのステップで分けて考えている。

第1ステップとして、3～5年をめぐりに密植状態にある桜の間引き伐採を進めつつ、ジンダイアケボノの植え替えを行う。また、ひこばえ保存による後継木の育成も継続して行う。課題として、植え替えは始めたばかりなので、一定期間生育状況を見守る必要がある。また、伐採や伐根を効率よく進めることも必要になる。

第2ステップとして、実施区間を定めたくえで植え替えを進めていく。ひこばえ保存による後継木の育成も継続する。植え替えに当たっては実施区間を3つの案で想定しており、また、費用総額とそれぞれ10年、15年、20年計画とした場合の単年予算額を試算している（別紙参照）。全体的な植え替えをすればその分費用が多額になる。

### 3 意見交換（要旨）

【参加者】 待合橋から下流域の桜並木が衰えてきており、この区間にも施肥を行いたい。そのため、グリーンパイルの提供本数を増やしていただきたい。

また、枯れ枝の判定がしやすい時期に高所部分の枯れ枝を剪定し、桜並木の環境美化に努めてほしい。

【商工観光 G】 下流域のグリーンパイルについては今後予算化を内部で検討していきたい。

枯れ枝については、これまで民地や道路に張り出したものについて、夏の時期に剪定をしてきた。今年度は、保存会の皆さんや樹木医の先生に協力いただき、現場を回って枯れ枝を確認し、随時剪定をさせていただいている。今後も、枯れ枝がわかりやすい時期に現場を回り剪定枝の選定を行っていききたい。

【市長】 皆さんのご意見をふまえながら、市全体の様々な取り組みも勘案し、総合的に検討していききたい。五条川桜並木の再生は私としてもマニフェストに掲げている。なるべくご意向に沿えるように、いろいろな方法を検討し、皆さんとも相談しながら進めたい。

【参加者】 桜の開花時期が早まり、毛虫の発生も早まってきている。花が散り、新芽が出始める時期に消毒を実施してほしい。

【商工観光G】 消毒1回目の時期としては、新芽の出始めるゴールデンウィーク前ぐらいのところで実施させていただいている。耐性がついてきていたため、消毒の種類を変えるなどの工夫をしている。引き続きできる限り迅速な対応を心がけていききたい。

【参加者】 堤防の雑草が茂ると桜並木の景観を損ねるだけでなく、ベッコウダケの温床にもなりやすい。雑草処理の回数を増やしてほしい。

【商工観光G】 市として年2回、愛知県が年1回、それぞれ草刈りを実施している。できるだけ保存会の作業効率上がるように維持管理課とタイミングを相談しながら進めていききたい。回数を増やすことについては予算が伴うことであり、市の予算全体の中で検討していききたい。

【市長】 景観や環境への関心は非常に高いと感じている。五条川を中心に見てみると、岩倉市の人口の多くが川からさほど離れていないところに集中している。それだけ市民から近い場所と言える。環境美化というところにはしっかりと対応していききたい。

【参加者】 大口町のあたりでは堤防の草刈りがきれいに行われているが、岩倉まで来ると途端に雑草が増える。

【市長】 回数を増やせば良いのだが、大きな費用もかかることである。工夫をしながら対応していききたい。

【参加者】 ひこばえの保全をしているが、いたずらで、あるいは草刈り時に誤って折られてしまうことがよくある。そのため保護柵で囲うなどの対応が必要なので、保護柵設置のための費用を支援してほしい。また、標示板に保存会の名称だけでなく市の名称を入れることで、市民にも大切に保存すべきものであることがよく伝わるのではないか。

また、倒木等でソメイヨシノが無くなってしまった部分におけるジンダイアケボノへの植え替えはたいへん喜ばしいことであり、明るいきざしと言える。ただし、私たちは保存会として、あくまで現在のソメイヨシノをできるだけ保

存していくのが主たる目的。植え替えを目的とする団体ではない。その部分に手厚い支援をお願いしたい。

【商工観光G】 保護すべきひこぼえが、過去の草刈り時等において刈られてしまったことがあることは承知している。県に対しても保存会の活動について理解を求めているところであり、一宮建設事務所に草刈りの際にはひこぼえに注意していただくよう、お願いをしている。保護柵の設置や連名での標示板設置のことも含めて、今後も県と話をしていきたいと考えている。

【参加者】 植え替えには多額の費用がかかる。先ほどの草刈りでさえ費用的になかなか難しいという状態のなかで植え替えを積極的に進めてくれとは思っていない。それに比べれば保護柵のことは小さなことなので、ぜひ愛知県ともかけあっていたきたい。

【市長】 このところ、愛知県も私たちの五条川桜並木保全の考え方に理解を示してくれつつあると感じている。法律のしほりというものは守らなければならないものなので、その中でどのようにやっていくかということを考えていきたい。ジンダイアケボノを植えていくことは費用のかかることであり、歳入面も考えていかなければならない。寄附ももっと募っていきたい。

また、私も一番大切なのは今ある桜の木をいかに保存していくかだと思う。何でも植え替えればいいというわけではない。植え替えたジンダイアケボノが育つには時間もかかる。どこを生かし、どこを植え替えていくか、そのあたりも皆さんと相談をしながら五条川の桜並木を守っていきたい。

【参加者】 桜管理台帳は保存会で整備して市へお渡ししているが、日常的な住民からの意見や対応状況などは保存会では把握しきれない。様々な情報を反映させていくために市で日常的に管理するようにしてほしい。最初に整備したときは緊急雇用対策として実施された。2回目はその補助がなくなり、保存会で実施したがたいへん苦勞したと記憶している。次に整備・更新する際は市として保存会といっしょになって整備をしていただきたい。

また、大市場橋から竹林公園まで整備される右岸側の堤防道路も桜並木としてほしい。五条川は両岸に桜があるのが大きな魅力となっている。

【商工観光G】 市民からの情報は市に入るので、これまでも例えば枝を切ったなどの情報は保存会と共有を図っている。引き続き情報共有に努めたい。台帳管理が難しいというご意見をいただいたので、どのような台帳を今後整備していくか、市と保存会とがいっしょになって次の台帳整備を進めていきたい。

大市場橋から竹林公園にかけての桜の新設については、愛知県が河川改修を今後進めていく中で、市が道路整備をどのように進めていくかであるが、都市整備課、商工農政課、そして愛知県とも現場を実際に見ながら、どういう形なら実現できるかというイメージを膨らませているところ。今後も話し合いを進

めながら方法を模索していきたい。

【市長】 管理台帳整備について、補助金を活用したものは、最初は補助金があっても、そのあと厳しくなるということがある。どういった整備をしていくのが良いのか、知恵をお借りしながら検討していきたい。

堤防の桜並木については、西日本での水害における事例として、増水時に樹木に流物が引っ掛かったことにより川の断面が狭くなり被害が増えたということがあり、県としても慎重になっているところはあるようだ。県に対しては引き続き要望していきたい。

【参加者】 高齢化、若年層の奉仕活動への無関心、定年延長、などにより保全活動の継続が危惧されている。活動が停滞すればひこばえや枯れ枝の剪定作業は委託が必要になるし、保全費用の予算化も必要になる。

【市長】 活動の継続は大きな課題。行政区においても同じような状況がある。防災、防犯、健康増進、教育など、様々な部分で地域の役割は非常に大きい。若い世代の無関心も大きな課題であり、何とかしなくてはならない。女性の参画を図ったり、担い手の拡大に取り組んだりしていかなければならない。コロナによる地域活動へのマイナスの影響が大きい。団体や地域ごとにそれぞれの事情もあると思うので、方法は様々。細かいところで意見をいただきながら少しずつ前進していきたい。

#### 4 あいさつ

・副市長よりお礼のあいさつ

午前 11 時 45 分終了